

## 活動例8 「人とのかかわり ー協同ー」 5歳児 3学期

### 『お店やさんごっこ 的あてゲームをつくろう』

#### 育てたい力

- ・友達と協力して目標に向かう力
- ・自分の考えを表し、友達の話も聞き入れていく力

#### 経験させたい内容

- ・友達と一緒にゲームやさんの内容を考える。
- ・協力してゲームやさんに必要なものを作る。
- ・お店に来る人に楽しんでもらえるよう考えを出し合う。
- ・お店の開店に向けて互いに助け合って作業を進める。

#### 5歳児11月 事例

##### 〔クラスの実態〕

男児18名、女児10名、計28名 穏やかで気持の優しい幼児が多い反面、自分の思いや考えを、進んで伝えにくい幼児が数名いる。気のおける友達以外に、自分から話をするのが少ない幼児もいる。運動会を通して、頑張っている友達や思うようにいかない友達に気づき、声をかけたり一緒に喜びあったりするなど友達とのかかわりに深まりが見られてきた。

##### 〔活動の流れ〕

10月下旬に、隣接する小学校の「お祭り」に参加。保護者と一緒に、製作やゲームコーナーを見て回る。今年度もいい刺激となり、ゲームやさんをやりたいと幼児から声があがる。また、昨年度の年長組のゲームやを覚えていて自分たちも遊ばせてもらい楽しかったという経験がある。的あてゲームの子供たちは、6人が集まり、ボールを転がして缶やペットボトルを倒す「ゲームや」の準備を始める。保育室にあったどんぐりを使った景品づくり、看板づくりを数日かけて行っていた。

##### 〔指導や環境の工夫〕

- ・幼児が思いを安心して出しながら、一緒に生活している友達の存在を大切に思えるような保育環境や援助が大切である。
- ・互いに分かり合い共感したり、考えを出し合い一つの目的に取り組んだりする経験を十分に保障することが大切。そのためには、じっくり遊びながら工夫したり、試したりする経験ができるように時間にゆとりをもって計画し、準備を進めていく。

#### 〔エピソード〕『高くない?』

【記録前の様子】 5人の幼児が、ボールを転がしての的が倒れると景品がもらえるというゲーム遊びを進めていた。的に応じた景品の数がそろい、看板も出来上がり、I児の「少し高いところからボールを転がそう」という提案が受け入れられ、ホールで場作りが始まる。



『高くない?』 ボールを斜面から転がしたいという考えが出て、巧技台、平板を使って2箇所で作って始めた。K児の考えで、看板をくぐるところからは階段にすることに決まる。1か所目の階段と坂を作っていたR児とA児は、別の場で階段を組み立てているK児達の様子を見て、「ねえ、その階段高くない?それじゃあ、小さい組さん(4歳児)、のぼれないかもしれないよ」と伝える。K児はR児達が見た階段を見て、自分の階段に登ってみた。「そうだね、ぼくは平気だけど、小さい組には、ちょっと高いね」「お客さん来てくれないとつまらないもんね」と話し、低くし始める。「手伝おうか?」「うん」という会話の後、巧技台を組み立て直し始めた。作り終わるとK児・R児は階段の上に登って「これでいいね」と確かめ合っていた。

【その後】 階段つき傾斜をつけたレーンの「ゲームや」にはクラスの友達、年少組が遊びに来ていた。受付、ボールを渡す、倒れた缶を直すなどそれぞれの役割をもって行っていた。3日程経つと、J児が「他の係もやってみたい」と教員に言ってきたので、友達に話してみるのはいかがでしょうかと伝えると、みんなで考え役割を交代して遊ぶ姿も見られた。



#### 予想される活動例

- ・お楽しみ会の出し物
- ・お店ごっこ
- ・誕生会の司会

##### 〔小学校への学び〕

- ・コミュニケーション力の基盤になる。集団生活になじみ、集団内での自分の存在に気づき、共によりよい生活ができるようになっていく。